



《そぞろ雨》 5号 絹本(軸装)

MIKI MOROHOSHI 諸星美喜 無垢のカタチ

日展会員として活躍する諸星美喜さんの個展が開催される。諸星さんといえば、山口華楊が創設した画塾・農鳥社の作家であり、日春展、日展を軸に地道な活動が続ける日本画家。初期には水の中の生きものを、そして現在は陸上に生きる動物や、人とともに生きる小動物などを絵にし、数多くのファンを魅了し続けてきた。華楊、そして直接の師である中路融人の理念を受け継ぐ諸星さんはまた、京都画壇の現在を担う作家のひとりでもある。

「無垢のカタチ」と題された今回の展覧会は、自身4年ぶりとなるもの。開催が決まった当初は、〈前回よりも進化した姿を見せたい〉と心に決めたが、直後に起きたコロナ禍によってさまざまな制約を受けることに。そんなときに、縁あって貴重な古墨を入手する機会に恵まれ、それをもとに新たな表現に取り組むことになったのだという。

「三重の和田栄壽堂の墨は、近代の日本画家たちに愛用されたものですが、後継者の

問題から廃業することになってしまいました。残された墨をどうにかしなくてはと考へ、さまざまな機関に働きかけてみた結果、幸いにも文化庁のご支援をいただくことが

できました。そこから、和墨と岩絵具を融合させた研究が始まり、今回の〈墨流しシリーズ〉が始まりました」

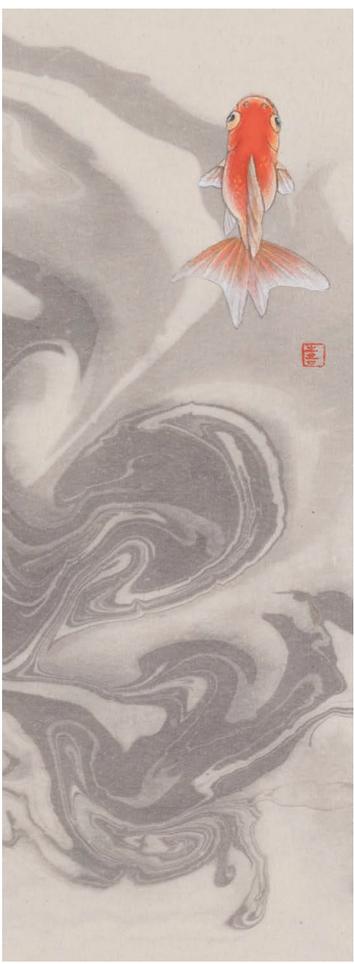
「良い紙と墨の相性を吟味し、水の中で漂うように墨と遊ぶ…。〈墨流しシリーズ〉からは未知の表現に対する探究心とともに、自由な発想で画面に向かう作家の姿が伝わってくる。また、こうして生まれた「無垢のカタチ」のイメージは、これまで一心に続けてきた動物画の〈命の表現〉とも結びついていく…。」

「無垢のカタチとは、命を感じる時の、一番やわらかい部分。今回はそんな、けがれない、うぶな命のやわらかさをテーマにしています」

墨と遊び、無垢を描く。日本画と墨流し、二つの「無垢のカタチ」が今、諸星さんの中で、結実しようとしている。(編集部)



《きなきな》 80F 紙本



《ひかた》 22.7×8.3cm 紙本(墨流し)

もろほし・みき
1969年福島県相馬市生まれ。99年京都造形芸術大学芸術学部日本画コース卒業。農鳥社入塾。2000年日春展初入選、日展初入選、03年京都日本画家協会選抜展、京都府知事賞。05年日展特選(同09年)。11～13年さんさん展(高島屋京都店ほか)。15年京に生きる琳派の美(京都府京都文化博物館ほか)。16年東京歌舞伎座「八月納涼歌舞伎筋書」表紙絵・題字揮毫。18年大阪芸術大学紀要「藝術41」論文執筆。19年個展(高島屋/大阪・横浜・京都、日展日展会員賞。現在、日展会員、新日春展会員、日本美術家連盟会員、農鳥社社員、京都日本画家協会会員、大阪芸術大学客員教授。

諸星美喜展

— 無垢のカタチ — 2023

〔大阪展〕

会期 5月31日(水)～6月5日(月)

会場 高島屋大阪店 6階美術画廊

☎ 06(6631)1101

〔京都展〕

会期 6月14日(水)～19日(月)

会場 高島屋京都店 6階美術画廊

☎ 075(221)8811

〔横浜展〕

会期 6月28日(水)～7月3日(月)

会場 横浜高島屋7階美術画廊

☎ 045(311)5111

〔日本橋展〕

会期 7月12日(水)～17日(月・祝)

会場 日本橋高島屋 S.C.本館

6階美術画廊

☎ 03(3211)4111

〔名古屋展〕

会期 7月26日(水)～8月1日(火)

最終日は午後4時閉場

会場 ジェイアール名古屋タカシマヤ

11階美術画廊

☎ 052(566)1101